

2025年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年7月11日

上場会社名 株式会社マルマエ 上場取引所 東
 コード番号 6264 URL https://www.marumae.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 前田 俊一
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 下舞 毅 TEL 0996-68-1140
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2025年8月期第3四半期の連結業績（2024年9月1日～2025年5月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期第3四半期	7,269	—	1,450	—	1,338	—	939	—
2024年8月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2025年8月期第3四半期 975百万円 (—%) 2024年8月期第3四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年8月期第3四半期	74.25	—
2024年8月期第3四半期	—	—

(注) 2025年8月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年8月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年8月期第3四半期	25,034	7,187	28.7
2024年8月期	—	—	—

(参考) 自己資本 2025年8月期第3四半期 7,187百万円 2024年8月期 一百万円

(注) 2025年8月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年8月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年8月期	—	10.00	—	20.00	30.00
2025年8月期	—	15.00	—		
2025年8月期（予想）				25.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年8月期の連結業績予想（2024年9月1日～2025年8月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,254	—	1,900	—	1,714	—	1,265	—	99.93

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2025年8月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 2社 (社名) 株式会社KMX、KMアルミニウム株式会社、除外 1社 (社名) -

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(追加情報)(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年8月期3Q	13,053,000株	2024年8月期	13,053,000株
② 期末自己株式数	2025年8月期3Q	390,706株	2024年8月期	399,162株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年8月期3Q	12,658,237株	2024年8月期3Q	12,647,707株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると断定する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注記事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期連結決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期連結決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(追加情報)	10
(企業結合等関係)	10

1. 当四半期連結決算に関する定性的情報

当社グループは、当第3四半期連結結果計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結結果計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行なっておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結結果計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により緩やかな回復が見られましたが、物価上昇、アメリカの今後の政策動向、地政学的リスクの高まりにより、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの事業に関連が強い半導体製造装置市場及び半導体市場におきましては、先端ロジックファウンドリやDRAM向けの投資が続き、NAND向けの投資も始まっております。さらに中国市場では活況な設備投資が継続しております。一方、一部のMPUメーカーの設備投資は停滞し、中国市場やAI需要に関連しない半導体向けの投資は、明るさ見え始めながらも緩やかな伸びにとどまっております。

FPD分野におきましては、G8 OLED向けの設備投資が暫くは継続する見通しを持っております。

また、当第3四半期連結会計期間にKMアルミニウム株式会社の株式を取得し、連結対象としたことから、のれん等の償却費51百万円、取得に係る金利が28百万円発生いたしました。さらに、一時的な取得費用が営業内で83百万円、営業外で60百万円発生いたしました。

これらの環境下で、当第3四半期連結結果計期間の経営成績は、売上高が7,269百万円、営業利益は1,450百万円、経常利益は1,338百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は939百万円となりました。

セグメントごと状況は、次のとおりであります。

なお、当社グループは、当第3四半期連結会計期間において、KMアルミニウム株式会社の株式を取得し子会社化したことにより、セグメントに「機能材料事業」を追加しております。

(精密部品事業)

精密部品事業においては、半導体分野では半導体工場の稼働に伴って必要な消耗品の需要が好調でした。しかし、新規の半導体製造装置向けは、活況な中国需要を取り込めておらず、停滞が続いております。FPD分野におきましては、G8 OLED向けの設備投資によって堅調な生産が続きましたが、一部の設備投資に先送りの動きが見られました。その他分野では主だった動きはありませんでした。

費用面については、当初の予想を上回る受注の増加に伴い、材料費や外注加工費などの変動費が増加しました。さらに、増産に向けた人材確保と既存社員への処遇改善のため給与のベースアップを実施する等、人材投資に積極的に取り組んだことで固定費は増加いたしました。一方、在庫金額の増加に加えて、設備稼働率の上昇により原価率が改善し、受注損失引当金及び棚卸評価損が40百万円減少したことで、利益率は改善いたしました。

この結果、売上高が5,842百万円、セグメント利益は1,406百万円となりました。

(機能材料事業)

機能材料事業の販売分野である、IT器材分野においては、半導体ターゲット向けの需要が当初想定よりも好調に推移しました。背景としては、当事業において生産する半導体及びFPD製造用ターゲット材料は、新規の設備投資が無くとも、各デバイスメーカーの稼働が向上すると需要が拡大する構造となっており、それらメーカーの生産が比較的好調だったか、在庫が減少し積み増されたかの要因が予想されます。なお、そのなかでも半導体用アルミターゲット材は、比較的レガシー半導体に多く使用されております。また、数社のターゲットメーカーに試作材料を納入し試験を続けている状況であり、好評価を受けております。なお、同じIT器材分野でも主に北米ロジックメーカー向けの製品を受注していたアルマイト処理は需要が停滞傾向で推移いたしました。

次に半導体装置部材分野では、主に半導体エッチング装置用の真空チャンバーを製造しておりますが、当製品は2022年の需要が高かった時期に長期間の受注を受け、その後に納入した分が過剰在庫となり、現在の売上高にも影響しております。現状は、実際の需要量の半分程度を出荷し、残り半分は顧客在庫を取り崩す在庫調整を行っている状況です。今後6～8カ月間は在庫の調整が続く予想であり、その間は現状程度の売上が続き、その後は需要見合いの売上に回復する見込みです。なお、同販売分野でコーターデベロッパ向けの装置部材も生産しておりますが、同製品は比較的順調に受注販売がなされております。

次に基礎素材分野ですが、同分野では電解コンデンサ用材料や、ハードディスク記憶装置(HDD)用材料、あるいは小口素材販売を行っております。

電解コンデンサやHDD用材料では国内の競合他社が事業撤退し目先のシェアは拡大傾向ですが、外国メーカーとの競合環境も顕著になっております。足元では、労務費など生産コストの増加を販売価格へ転嫁し値上を行っておりますが、今後は、海外との競合環境も見極めながら、一定の利益率と販売量をバランスさせる価格戦略をとっていく方針です。基礎素材のなかでも小口販売は、競合の少ないスラブ材の販売を行っておりますが、液晶製造装置の需要が減少するなど、停滞傾向です。マルマエとの販売連繫を行う事で販売額向上を図ってまいります。

この結果、売上高が1,427百万円、のれん償却費51百万円を控除した後のセグメント利益は149百万円となりまし

た。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は25,034百万円となりました。主な内容は、現金及び預金4,100百万円、受取手形及び売掛金2,278百万円、電子記録債権1,391百万円、仕掛品1,748百万円、有形固定資産9,535百万円、のれん4,242百万円等であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は17,846百万円となりました。主な内容は、買掛金1,447百万円、1年内返済予定の長期借入金1,359百万円、長期借入金12,512百万円等であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は7,187百万円となりました。主な内容は、資本金1,241百万円、資本剰余金1,964百万円、自己株式△512百万円、利益剰余金4,449百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、当第3四半期連結会計期間より連結決算に移行しております。

2025年8月期の業績予想につきましては、2025年6月20日に公表いたしました「個別業績予想の修正及び連結決算への移行に伴う連結業績予想の公表、配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (2025年5月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	4,100,389
受取手形及び売掛金	2,278,421
電子記録債権	1,391,949
商品及び製品	240,123
仕掛品	1,748,895
原材料及び貯蔵品	707,698
その他	114,847
貸倒引当金	△4,645
流動資産合計	10,577,680
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物（純額）	2,082,959
機械装置及び運搬具（純額）	3,983,726
土地	2,503,767
建設仮勘定	889,686
その他（純額）	75,447
有形固定資産合計	9,535,586
無形固定資産	
のれん	4,242,635
その他	36,604
無形固定資産合計	4,279,240
投資その他の資産	
繰延税金資産	550,356
その他	91,710
投資その他の資産合計	642,067
固定資産合計	14,456,894
資産合計	25,034,575

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
(2025年5月31日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	1,447,798
短期借入金	200,000
1年内返済予定の長期借入金	1,359,880
未払法人税等	448,374
賞与引当金	291,413
製品保証引当金	5,801
受注損失引当金	15,900
株式報酬引当金	18,000
その他	966,771
流動負債合計	4,753,938
固定負債	
長期借入金	12,512,000
退職給付に係る負債	452,998
役員退職慰労引当金	23,897
その他	104,072
固定負債合計	13,092,968
負債合計	17,846,907
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,241,157
資本剰余金	1,964,301
利益剰余金	4,449,991
自己株式	△512,052
株主資本合計	7,143,398
その他の包括利益累計額	
繰延ヘッジ損益	36,408
退職給付に係る調整累計額	7,860
その他の包括利益累計額合計	44,269
純資産合計	7,187,667
負債純資産合計	25,034,575

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)
売上高	7,269,308
売上原価	4,917,883
売上総利益	2,351,425
販売費及び一般管理費	901,236
営業利益	1,450,189
営業外収益	
受取利息	1,175
受取保険金	2,145
受取手数料	2,131
その他	3,537
営業外収益合計	8,990
営業外費用	
支払利息	46,519
支払手数料	60,166
その他	13,714
営業外費用合計	120,400
経常利益	1,338,778
特別損失	
固定資産除却損	0
特別損失合計	0
税金等調整前四半期純利益	1,338,778
法人税、住民税及び事業税	444,109
法人税等調整額	△45,231
法人税等合計	398,877
四半期純利益	939,900
親会社株主に帰属する四半期純利益	939,900

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)
四半期純利益	939,900
その他の包括利益	
繰延ヘッジ損益	36,408
退職給付に係る調整額	△658
その他の包括利益合計	35,749
四半期包括利益	975,650
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	975,650

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)
減価償却費	715,314千円
のれん償却額	51,116

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	精密部品事業	機能材料事業			
売上高					
半導体製造装置	4,591,312	—	4,591,312	—	4,591,312
F P D製造装置	1,026,307	—	1,026,307	—	1,026,307
I T器材	—	512,147	512,147	—	512,147
半導体装置部材	—	284,863	284,863	—	284,863
基礎素材	—	627,936	627,936	—	627,936
その他	217,143	1,497	218,641	—	218,641
顧客との契約から生じる収益	5,834,763	1,426,445	7,261,208	—	7,261,208
その他の収益	8,100	—	8,100	—	8,100
外部顧客への売上高	5,842,863	1,426,445	7,269,308	—	7,269,308
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	948	948	△948	—
計	5,842,863	1,427,393	7,270,257	△948	7,269,308
セグメント利益	1,406,938	149,213	1,556,152	△105,963	1,450,189

(注) 1. セグメント利益の調整額△105,963千円は、セグメント間取引の消去△167千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△105,796千円であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

2025年4月8日にKMアルミニウム株式会社の株式を取得し連結の範囲に含めたことに伴い、当第3四半期連結会計期間においてのれんが4,242,635千円増加しております。なお、当該のれんの金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的な会計処理によって算定された金額であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、当第3四半期連結会計期間において、KMアルミニウム株式会社の株式を取得し子会社化したことにより、報告セグメントに「機能材料事業」を追加しております。

(追加情報)

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

当社グループは、当第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は次のとおりであります。

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社

連結子会社の名称 株式会社KMX、KMアルミニウム株式会社（孫会社）

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、当社が100%出資して設立（2025年3月18日付）した株式会社KMXによるKMアルミニウム株式会社の全株式を取得（2025年4月8日付）したことにより、株式会社KMX及びKMアルミニウム株式会社（当社の孫会社）を連結範囲に含めております。

株式会社KMXの決算日は、2月末であります。

KMアルミニウム株式会社は、決算日を3月31日から8月31日に変更しており、この決算期変更により変則期間となる当第3四半期連結会計期間の同社の決算は、2025年4月1日をみなし取得日とし2025年5月31日までの2ヵ月間を連結しております。

(企業結合等関係)

(株式取得による企業結合)

当社は、2025年3月4日開催の取締役会において、日本産業パートナーズ株式会社が管理・運営その他関与するファンドなどから、KMアルミニウム株式会社の株式100%について、当社が100%出資して設立いたしました特別目的会社（SPC）を通じて取得する株式譲渡契約を締結することについて決議しました。当該決議に基づき、2025年4月8日に株式会社KMXによるKMアルミニウム株式会社（以下、KMAC社）の全株式取得が完了いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称	KMアルミニウム株式会社
事業の内容	アルミニウムのインゴット・ビレット・スラブ・合金の製造・販売 高純度アルミニウムの地金の製造・販売

(2) 企業結合を行った主な理由

当社の営業分野として、半導体分野、FPD分野、その他分野があり、現在は特に半導体分野での成長を目指しております。また、当社は現在進めている中期事業計画において、半導体製造装置用の消耗品を伸ばす戦略を掲げておりますが、先端分野装置部品の受注獲得では一定の成果を出せている一方、レガシー半導体製造装置部品については、チェンジコントロール（CC）やコピーイグザクトリイ（CE）等の業界ルールもあり、先駆企業のシェアを崩せずにいる状況でした。

KMAC社は、福岡県大牟田市に本社を置き、九州三井アルミニウム工業株式会社を源流とする企業であり、現在は主に半導体スパッタリングターゲット用の超高純度アルミニウム製品、アルミ電解コンデンサー用の高純度アルミニウム製品、低圧鋳造鋳物製品、アルマイト製品、鍛造材等の製造・販売を行っております。超高純度アルミニウム製品は、純度99.99%以上の地金やスクラップを自社で溶解等を行い、顧客の要求する純度（99.999%以上）に精製したうえで鋳造し販売しています。アルミニウムの精製作業には高度な技術が必要であり、KMAC社は高度な精製技術を保有し、それが高い世界シェアにつながっております。また、アルミニウムの半導体用スパッタリングターゲットは、レガシー半導体の製造にも多く使用されることから、当社の半導体分野の戦略である消耗品の拡充とレガシー分野の補完の双方を両立できることとなります。さらに、KMAC社の低圧鋳造鋳物製品は、半導体製造エッチング装置の搬送系及びプロセスチャンバーに使用され、高いシェアを保持しております。

KMAC社のアルマイト製品も、主に半導体製造のエッチング装置部品に使用される表面処理（特殊硬質アルマイト）です。KMAC社の特殊硬質アルマイトは、エッチング装置の消耗品等に多く使用されて顧客評価も高いことから、KMAC社の生産能力を上げることで高い成長性が見込まれます。

鍛造材につきましては、主に上記アルマイト製品の母材（製品加工及びアルマイト処理前素材）として使用され長寿命を実現する他、半導体CVD工程では表面処理をせずとも高い耐食性を示すことから、顧客のコスト低減に

寄与しています。

なお、KMAC社は近年、事業の見直しをおこなっており、売上高は大きくても付加価値の低い素材事業（アルミニウム合金ビレット・スラブの製造受託等）については受注を縮小しております。これらのように、KMAC社の事業は弊社の半導体分野と親和性が高く、共に成長する関係を築けるものと考えて株式の取得を行う事としました。

(3) 企業結合日

2025年4月8日（みなし取得日2025年4月1日）

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100.0%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が設立した特別目的会社（SPC）を通じて現金を対価とする株式取得により議決権の100%を取得したことによるものであります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2025年4月1日から2025年5月31日

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	9,000,000千円
取得原価		9,000,000千円

4. 主な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 : 83,506千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

4,293,752千円

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される超過収益力から発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

14年間にわたる均等償却

(4) 取得原価の配分

当第3四半期連結会計期間末において企業結合日における識別可能な資産及び負債の特定並びに時価の算定が未了であり、取得原価の配分が完了していないため、その時点で入手可能な合理的情報に基づき暫定的な会計処理を行っております。